

通算5度目の

優勝

全員野球!

安井息軒先生杯交流大会

第一回戦 (対 生目中)
第二回戦 (対 佐土原中)
場所・清武中グラウンド
準決勝戦 (木花中)
決勝戦 (加納中)
場所・加納公園野球場

アクセントを糧に

エースで四番打者、チームの支柱である名城の異変は、全日本少年地区予選初日の前日だった。試合当日は、痛みを堪え、痛み止めを飲んで大会に臨んだが、本来の出来とは程遠く、2戦目に至っては、内野送球もままならない状態。診断の結果を受けて、名城無しの試合で、チーム力を向上し、夏の中体連に全焦点を当てる方針とした。

機能した全員野球

一回戦は初対戦となる生目中。先発、児玉の3四球で満塁となった後、投球練習無しで急遽リリーフに入った木之下が、死球を与えて先制を許すも、一失点で切り抜けた。直後の五回表、三番に戻った松本の認定二点を挙げ、そのまま逃げ切り二回戦へ。

二回戦は、昨年秋の中体連で、九〇のスコアで勝利を収めた佐土原中。練習試合を含めて三度目の対戦となったが、佐土原中は打線が向上、二回に二点を先制される。安打は出るが、詰りめが甘く、得点に結びつかない回が続いたが、反撃の狼煙(のろし)を上げた。走者は一人加入の中原だった。認定本塁打で同点、右翼越え認定本塁打で同点、その後の集中打で一挙に五点を

挙げ、その後は盤石の闘いぶり。一日明けての準決勝戦は、今日大会で一番の強敵と想定していた木花中。対戦は、練習試合のみ。互いに決め手を欠き、判定戦が脳裏をかすめる七回表に攻撃陣がようやく相手投手を捕まえて、継投を想定していた多田が最後まで粘り強く投げて完封勝利! 大会の目的が達成され、最後の決勝戦は『伸び伸び野球』を掲げた。制球の定まらない先発児玉をリリーフした木之下が、要所を締める投球を披露し、全員野球でこの大会、三年ぶり四度目の優勝を果たした。表彰式では、主将の渡部が最優秀選手賞、監督の宮越先生が最優秀監督賞を受賞した。

編集者後記

試合の最中、チームや応援席が喜び騒いでる時に、独り私だけが淡い表情をしている時は、『写真を撮りそこねた』と落胆してる時です。どこに動くか分からない球や選手を追いかけながら、たまには人がブラインドとなつて捕れなかつたり、素早い動きにオートフォーカスが追従できずにピンボケになったり... 試合の度に、自宅に帰って写真を見返しては、反省と落胆と弁解を繰り返す日々です。人間は失敗するものですが、万全な準備をしておけば、その確率は一気に低くなりますので、子供たちも万全な準備を!

2点認定本塁打を放ち、チームに迎えらる新戦力の中原



決勝戦で先制の2点適時打を放った多田

認定本塁打を放った松本